



磯だけど、内陸でも!

イソヒヨドリ *Monticola solitarius* は「ヒヨドリ」という名前ですが、ツグミの仲間。日本では2亜種が確認されており、亜種イソヒヨドリ *M. s. pandoo* が北海道では夏鳥・本州以南では留鳥として繁殖、亜種アオハライソヒヨドリ *M. s. philippensis* が本州・九州・南西諸島で迷鳥として記録されています（日本鳥学会, 2012）。

香川県でも、主に海岸周辺で普通種として繁殖しており、最も古い記録は、五色台大崎鼻の北端・小槌島での記録（雌1羽）です。これは、「日本鳥学の父」とも呼ばれた黒田長礼が、1912年12月30日（100年以上前!）に採集したもの。100年間に環境も変わり、個体数も繁殖地も減少しているとは思いますが、少なくとも同地で、今もイソヒヨドリが観察できることにほっとします。

このように海岸部では出会う機会も多いのですが、内陸となると非常に難しくなります。それでも思いがけない内陸部にいるのが、イソヒヨドリのおもしろいところです。

実は、本種は日本では「海岸の鳥」ですが、世界的には標高3000m前後の岩山に生息する「山岳の鳥」。

本会会長の曾根さんは、海岸から40kmも離れた高知県四万十川上流で雄を見たことがあるとのこと（曾根, 2006）ですし、香川県全域で観察できる可能性があります。

例えば本会に寄せられた記録としても、さぬき市大川ダム（2006年12月27日、1羽、寺口耕一氏）、東かがわ市千足ダム（2007年7月26日、1雌幼鳥1羽、寺口耕一氏）、まんのう町琴南支所（2017年5月3日、雄1羽、坂田和男氏）、綾川町イオンモール綾川（2014年4月12日、雄1羽、岩田篤志）などがあります。内陸でも、特に川沿いやダム付近では可能性が高いのではないのでしょうか。

イソヒヨドリ雄の囀りは、「ツツーピーチョピ」など。文字で表すのはとても難しいのですが、声量があり、高く口笛のような囀りが聴こえたらチェックしてみましょう。姿を見られれば、その特徴のある配色で間違えることはありません。



▲イソヒヨドリ 雄

2018年5月19日 綾川町 PHOTO◎岩田篤志

巣箱での繁殖記録も!

県内では、2例の繁殖記録が報告されています。一つは、昭和49年6月2日に観音寺市伊吹島（山本, 1984）の記録。こちらは、「廃屋のひさし」に架けている「ボール箱」での繁殖であり、報告者は「巣箱」と記載していますので、野鳥の巣箱として作られたか、架けられていたものでしょう。

また、丸亀市広島では、石切場の崖の割れ目の巣に、雄が「15分から20分のきわめて規則的な間隔で虫を運ぶ」という行動が観察されています（平成元〜3年の間（年月日不明）、金関, 1992）。

イソヒヨドリは普通種の留鳥でありながら、巣は崖の岩の間などに造られるため、実際の繁殖を観察した記録はあまり有りません。もし見つけた場合は、イソヒヨドリの繁殖の邪魔にならないようご注意くださいながら観察し、ぜひ本会にご報告ください。

- ・1984, 山本正幸 編集: 高松市立図書館. 市民文庫シリーズ 11 香川の野鳥, 高松市立図書館
- ・2006, 曾根俊二. 野鳥おもしろ雑学 イソヒヨドリ. こげら通信 第49号 2006年5月号, 香川の野鳥を守る会
- ・1913, 黒田長礼. 讃岐及び大和地方採集の鳥類, 動物学雑誌 第296号, 日本動物学会
- ・1992, 金関正彦. 丸亀市広島野鳥雑録(1989〜1991). 香川生物 第19号, 香川生物学会.